



エペソ人への手紙 1-6章
エペソ人への手紙の祈り

エペソ 4:-6: 2016.2.3

5:8-20 5:15-17 5:7-14 5:1-6	5:8-20 5:15-17 5:7-14 5:1-6	4:12-16	4:1-11 歩
賛美 悟り 光 汚れ	賛美 悟り 光 汚れ	からだを	からだは
6:1-9 3女奴をば 肉を穿つ	5:21-33 大體は 任え従う	変える	ひと
6:18-22	6:10-17	4:25-32	4:17-24 歩
祈り合う	武器を着る	鹿み合う	新人を着る
(ことば) 洗う	正義と真理 悪魔	ことば 悪魔 洗う	正義と真理

良い正しい/聖いさかい
(鹿み) (祈り)

エペソ人への手紙の4段落目。4章から最後まで。ここが4段落目ということですが、4段落目は、ちょっと形がいびつです。5章1節から6章9節まで、ここがちょっと長いです。長くてバランスが悪そうにも見えるのですが、この形を確かめるためには、4章17節から32節までの段落と、6章10節から22節までの段落が並行しているのだというところを見るとよくわかるでしょう。

エペソ 4:-6: 2016.2.4

5:8-20 5:15-17 5:7-14 5:1-6	5:8-20 5:15-17 5:7-14 5:1-6	4:12-16	4:1-11 歩
賛美 悟り 光 汚れ	賛美 悟り 光 汚れ	からだを	からだは
6:1-9 3女奴をば 肉を穿つ	5:21-33 大體は 任え従う	変える	ひと
6:18-22	6:10-17	4:25-32	4:17-24 歩
祈り合う	武器を着る	鹿み合う	新人を着る
(ことば) 洗う	正義と真理 悪魔	ことば 悪魔 洗う	正義と真理

良い正しい/聖いさかい
(鹿み) (祈り)

エペソ 4:17-32 / 6:10-22

悪い日 邪悪日 悪魔

異邦人の手につけろく

罪を脱し

新しい人になる

悪者から

新しいイスラエル

新しいヨシヤ

福音の勝利

不潔な人 忍耐 悪魔

着る

真理 正義

新しい人になる

クリスチャンの心

それを知り

互いに祈り合う

(互いに洗う)

ということで、これ(4:17-32)を取り出し、こちら(6:10-22)を取り出して、4つに分けています。この紙のとおりになっていますので、上の段が、4章の下側(4:17-32)で、6章の下側(6:10-22)が、ここ(下の段)の2つになっています。4章17節から32節までの段落が、(ホワイトボード)上。6章10節から22節までの段落が、(ホワイトボード)下にきています。

その中で、並行していることばを取り出して分析してみると、4つに分けたこちら側(左側)「ことば」の話がたくさん出てきます。(4:25-32)は「互いに真実を語る、悪いことばを話すな、役立つことばを話しなさい、叫び、そしり、悪意」。基本的に、隣人に対して、偽り、悪、真実…ことばの話が出てきます。それに対して、6章18節からのところは、「互いに祈ってください、口を開くときに大胆に語れるように、」福音を語っている。それと、お互いのことを教えあって知り合っている。祈り合う、知り合うというところも、ことばの話です。これが、左側。

右側は、「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着る。」この「着る」と、「武具を身に着ける、正義の胸当てを着ける」。この着ける、着ける、着ける。着る、着る、着るといものが並行しています。新しくなる。新しくなることと、強められる。武具を着るといことで、着る話と、真理と義。「真理の帯を締めて胸には正義」。真理と義・正義というのもこちら(右)側の共通点になっています。

上の2つ、4章のほうは、「異邦人のようではなく、古い人のようではなく」というように、古いことをやめなさいというのが、上側です。6章のほうは、それに対して肯定的に、「悪魔に立ち向かう、祈りあって雄々しくあって大胆に語る」ということなので、暗闇に対して光の実を結ぶのです。光の実は、5章8節に「光の結ぶ実は、善意、正義と真実」。正義と真実というのが、ここ(右側)に書かれているところと同じですけれども、暗闇に対して光の実を結んで強くあれ、そして悪に対して戦う。福音のために大胆に雄々しく語れというようにつながりが、ここ(下側)に見えます。そして、異邦人のようではなく、新しいイスラエル、新しいヨシュアに従って、福音の勝利のために戦えというのが後半です。

バッテンでクロスにしているほうがあります。(4:25-32/6:10-17)「悪魔、悪魔、悪霊に対して」ということですので、悪魔に対して戦っている。「贖いの日、邪悪な日」ということで、裁きについてここで語っていますよね。

それと、こちら側(4:17-24/6:18-22)の並行でいうと、不潔、滅び、忍耐、忠実。こちらはいのち側。こちら(4:25-32/6:10-17)は、正しい側。こちら側(4:17-24/6:18-22)は、いのち側。聖さ、聖い一致、新しく神のいのちが与えられる。新しく神に型取り造り出される。新しいアダムになるということがここにありますが、新しく生まれる話があって、4章のほう(4:17-24)は、キリストを知る、キリストに学ぶ、キリストに聞く、キリストに教えられるということと、(6章のほう/6:18-22)互いに知り合う、キリストから離れていた者がキリストに近づく、キリストを知る。互いに離れていて鎖につながれていたとしても、互いに知り合う、互いに近づくということが…そこから離れたわけだからね…そのいのちの関係を保つことと(4:17-24/6:18-22)、悪に対して、罪に対して戦うということ(4:25-32/6:10-17)が、最後の後半の2つになっているのではないかなということ。

「罪の赦し」と「悪から救う」これは、主の祈りですね。「いのち・パンが与えられること」そして、「祈りなさい」と言っていますので、主の祈りの課題がここにも現れているということだと思います。